

流通とSC・私の視点

2014年12月28日

視点(1895)

SCの覇権業態とマクロシェア理論と今後の日本のSC(その2)!!

(SC理論編)

(流通とSC・私の視点 1894 より続く)

アメリカのSCの小売業の売場面積シェアが61.0%、売場面積シェア44.9%はオーバーストア状態と考えられます。一方、日本のSCの小売業の売場面積シェアが20.5%、売場面積シェアが31.0%は、SCが多様化することとSCが覇権業態になるとするならば、また開発余裕があると考えられます。

そこで、日本の近未来(2030~2040年)のSCの実態は次のように考えられます(六車流：流通・マーケティング理論)。

- ①アメリカのSCの小売業に占める割合を、売場面積は現状のシェアの「44.9%」を適正とするが、売上高のシェアは61.0%ではなく、「売場面積増による限界収獲維持の原則」により、イコールと考え「44.9%」とします。
- ②日本のSCの小売業に占める割合を、売場面積は現状のシェアの「31.0%」、また売上高シェアはSCの覇権業態を考慮し、現状は20.5%であるが、売場効率を高めて「31.0%」とします(今後はSCの非エンターテインメント化と上質感のSCづくりで売場効率が高まります)。

日本とアメリカの経済時差を調整するために、近未来の日本の小売業に占めるSCの割合を、日米間のシェアの中間値と仮定します。その結果、日本の近未来のSCの売場面積のマクロシェアと売上高のマクロシェアは次の通りとなります。

$$\sqrt{\text{アメリカのSCのマクロシェア} \times \text{日本のSCのマクロシェア}} = \text{近未来の日本のSCのマクロシェア}$$

$$\sqrt{44.9\% \times 31.0\%} = \boxed{37.3\%}$$

以上の結果、理論的には日本のSCの近未来の実数(小売業に占めるSCのシェア)は、次の通りとなります。

	売場面積のマクロ指数	売上高のマクロ指数
現状(2012年)	31.0%	20.5%
近未来	37.3%	37.3%
近未来/現状比	1.20倍	1.82倍
近未来までの増加実数	942万㎡	23.5兆円
近未来のSC全体数値	5,582万㎡	51.5兆円

(開発SCのみによる売場効率ではなく、SC全体で売場効率が高まることになる)

現在(2012年)の日本全体及び競争の激しいエリアの実態は次の通りです。

	日本全体	競争の激しいアメリカ並のエリアの事例	三大都市圏の都市エリアの事例	三大都市圏以外の都市エリアの事例
SCの売上比率	20.5%	37.5%	37.1%	34.9%

ただし、アメリカ並みのSC増の限界収獲維持の法則ではなく、日本の現状並みのSC増の限界収獲通減の法則を用いると次の通りとなります。

	売場面積のマクロ指数	売上高のマクロ指数
現状(2012年)	31.0%	20.5%
近未来	37.3%	30.3%
近未来/現状比	1.20倍	1.48倍
近未来までの増加実数	942万㎡	13.8兆円
近未来のSC全体数値	5,582万㎡	41.8兆円

$$\sqrt{43.9\% \times 20.5\%} = \boxed{30.3\%}$$

(開発SCのみによる売場効率ではなく、SC全体で売場効率が高まることになる)

<前提としての指数>(2012年末を基軸に計算)

日本全体の小売販売額	日本全体の小売業の売場面積	日本のSCの売上高	日本のSCの売場面積	日本のSC数
138兆円	14,966万㎡	28兆円	4,640万㎡	3,096SC
近未来においても、仮計算として現状ベースの数値を用いた				

以上に基づくと、今後のSC増加数は628SC(942万㎡÷1.5万㎡)となり、**近未来には3,724SC**(3,096SC+628SC)となることが想定されます。ただし、SCの中に新陳代謝が起こるため、淘汰されるSCの続出、一方において新たに開発されるSCが互いに相殺しつつSC数を増加させていくこととなります。

(株)ダイナミックマーケティング社⁺
代表 六 車 秀 之